

活動報告

第1回「ロシア極東における日露印協力に係るトラック2対話」

ERINA 調査研究部長・主任研究員
新井洋史

2021年1月20日、15:30～17:30（日本時間）にオンライン形式で第1回「ロシア極東における日露印協力に係るトラック2対話」が開催された。ERINA は本会議の日本側窓口として、会議の運営に関わった。

本会議は、インド側の発案によって実現したものである。2019年9月に、インドのナレンドラ・モディ首相が「第5回東方経済フォーラム」に参加したことなどを踏まえ、インド外務省がイニシアチブを取る形で、ロシア極東における日本、ロシア、インド3カ国の協力に関するトラック2対話の枠組みづくりが進められた。一連の調整を経て、2020年末までに、インド側ではインド世界問題評議会（ICWA）、ロシア側は極東投資誘致・輸出促進エージェンシー（FEIEA）、そして日本側はERINAが窓口になる形でトラック2対話を立ちあげることが固まった。

ロシア極東は、ロシアにとって太平洋地域への玄関口であるとともに、豊富な資源を有する地域であり、ロシアのみならず東アジア諸国にとっても戦略的・経済的に重要な地域として浮上している。ロシアにおいて、「東方シフト」政策が推進され、極東・北極圏発展省が設置されたことは、プーチン大統領のもとで連邦政府が極東開発を重視してきたことを裏付けるもので

ある。その際、ロシア極東の開発政策を進めるために、地域の諸国や主要な2国間協力パートナーとの協力を重視している。ロシアが2015年から毎年開催している東方経済フォーラムは、こうした協力のための重要なプラットフォームとなっている。

こうした中、ロシアの重要なパートナーである日本とインドは、ロシア政府の極東開発政策に大きな関心を払っている。2019年の東方経済フォーラム首脳会議でモディ首相が発表したインドの「Act Far East」政策と、2016年に開始された日本の日ロ関係改善のための8項目の「協力プラン」は、両国がロシア極東の開発においてロシア政府と協力することに強い関心を持っていることを物語っている。

以上のような情勢認識の下、インド側は3国間協力の枠組みの重要性を強調しており、このことが本会合の立ち上げにつながった。

会議には、3カ国のシンクタンク、経済団体、政府系の企業等から合計30名程度が参加し、いわゆる「チャタムハウスルール」で行われた。

上述の通り、ロシア極東地域は戦略的に重要な地域となっており、トラック2の枠組みで議論すべきテーマには、経済、社会、地域課題などの様々なものが含まれる。こうした中、第1回目の会合である今

回は、議論が散漫になることを避け、経済協力を中心に据えることとし、具体的などのような分野での協力の可能性があるかを中心に議論した。会議参加者がそれぞれに言及した有望分野を列举すると、エネルギー、炭田開発、運輸・物流、海上連結性、ダイヤモンド加工、農業、林業、製薬、保健、ハイテク、科学研究、人材育成、観光、人道分野など、経済分野以外のものも含まれていた。初会合ということもあり、また、時間も限られていたので、各分野について突っ込んだ議論を行うことはできず、それぞれの関心事項を聞くことにとどまった。

とはいえ、こうしたトラック2の対話自体が3国間協力の重要な側面であるとの見解は参加者間で共有され、本トラック2対話を毎年開催していくことについては合意がなされた。また、具体的な協力案件の組成を図ることの重要性を指摘する発言もあり、経済界を交えた対話の可能性を探ることとなった。会議成果として、以上の点などを含む「総括文書¹」を取りまとめた。

ロシア極東地域は、ERINAの重要な関心地域であり、Think & Do タンクとして、この地域における国際協力を主体的に関与していくという観点からも、引き続き本トラック2対話の日本側窓口としての役割を果たしていきたい。

¹ 第1回「ロシア極東における日露印協力に係るトラック2対話」総括文書（英文）：
<https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2021/01/20210120Outcome-Document.pdf>